

中濃農林事務所の普及活動状況 令和3年8月25日現在

今月の重点活動

■ぎふ清流GAP評価制度 自己点検・改善活動の支援

8月11日及び12日に、管内のなす生産者2名に対して、GAPの自己点検活動の支援を行った。

ぎふ清流GAP評価制度の管理項目に沿って、栽培履歴、在庫管理等の書類や農薬保管庫、圃場等を生産者と確認した。農業普及課からの指摘により、今まで生産者の目につかなかったリスクが見つかり、意見交換しながらよりよい改善策を見つけることができた。

上記の生産者は、今後ぎふ清流GAPの評価を受ける予定であり、更なるリスク改善に取り組んでいく予定である。

農業普及課では、今後も関係機関等と連携しながら、食品安全や環境保全、労働安全等に配慮したGAPの推進を進めていく。

(地域支援係)



【GAP点検の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県女性農業経営アドバイザー（GLAMA） オンライン研修会支援

8月20日、第2回GLAMAいきいきネットワーク講演会がオンライン形式で開催され、武儀地区の会員3名が中濃総合庁舎のサテライト会場にて参加した。

今年度の県連事務局である東濃ブロックが恵那総合庁舎でメイン会場を運営し、東美濃クリ産地の事例を株式会社恵那川上屋より講演いただいた。また、岐阜及び西濃ブロックから近況報告が行われ、休憩時にはアドバイザーの紹介動画が流され、アドバイザー相互の交流を図ることができた。

農業普及課では、アドバイザーの自主的な組織活動への支援を引き続き行っていく。

(地域支援係)



【中濃サテライト会場】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） ほ場審査

水稻採種ほ場のほ場審査が始まり、農業経営課、郡上・可茂農林事務所等からも種子審査員を派遣いただき、JAめぐみの、全農岐阜、美濃市、岐阜県米麦改良協会等関係機関の協力を得ながら実施している。

8月5日は「あきさかり」、19日は「ほしじるし」、25日は「あさひの夢」の出穂期審査および「あきさかり」の糊熟期審査を行い、審査基準に基づき、異品種混入やストライプ株、病虫害や雑草の発生状況を審査した。例年より出穂が早まり、出穂期審査は穂揃期での審査となったが、各ほ場いずれも生育がよく揃い、よく管理されていることが伺えた。

農業普及課では、ほ場審査を適切に実施し、水稻優良種子の確保につなげていく。

(地域支援係)



【審査ほ場】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 研修会・通常総会

第27回中濃いちご生産組合研修会および通常総会が、8月6日にJAめぐみの本店で行われた。

研修会では、農業普及課から今後の育苗管理に加え、正しいハウス内温度測定の方法、炭酸ガスの施用方法といったハウス内環境管理についても指導を行った。

本総会から1名の新規組合加入者があり、組合員は15名となった。また、事業計画ではぎふ清流GAPに取り組むとしており、農業普及課ではスマート農業を推進するとともに、新規就農者の営農、GAPの取り組みに対しても支援を行っていく。

(地域支援係)



【総会の様子】

■いちご 先進農家視察研修

8月4日、中濃いちご生産組合のうち、高設栽培を取り入れている農業者、富加町の農業者、(有)ふる里農園美の関が参加し、第46回岐阜県いちご共進会で農林水産大臣賞を受賞された各務原市のいちご農家を視察した。

この視察研修は、環境制御技術など増収技術を習得するために農業普及課で企画したが、育苗期であることから、育苗管理についても得るものが多く、特に採苗期が早く、短期間であることは良苗生産の観点から見習うべきことであった。

農業普及課では、先進農家視察を定植後も企画し、本ぽの環境制御技術の導入についていちご農家を誘導していく。

(地域支援係)



【視察の様子】

■夏秋なす 中間目揃会

8月6日、中濃夏秋茄子生産出荷組合の出荷目揃会が開催され、組合員、市場関係者、JAめぐみの及び選果場作業職員等が参加した。

実際に出荷されたなすを見ながら、A品・B品等の規格判別や袋入りなすの入れ方等、店頭に並んだ時の見栄えも意識して、目揃えを行った。

農業普及課からは、栽培管理研修として、今後発生が予想される病虫害や台風に対する対策について指導した。

出荷終盤まで、高品質のなすを出荷量を落とさずに出荷できるよう、個別巡回等を通じて生産者支援を行っていく。

(地域支援係)



【なす目揃えの様子】

地域資源を活かした農村づくり

■粟(アワ) 新嘗祭献穀粟の栽培支援

今年度の新嘗祭にて、関市の農業者が粟を献穀することとなり、献穀者、JAめぐみの、関市、中濃農林事務所が連携し、5月13日にセルトレイへの播種、6月9日に定植、8月6日に防鳥ネット設置を行った。8月11日に出穂が始まり、地際から穂先まで180cm程の高さに生育した。

今後は、成熟期を迎える9月下旬に収穫とはさがけ作業、10月に脱穀と脱ぶ、選別作業を行う予定である。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、献穀粟の栽培を支援していく。

(地域支援係)



【8月20日の粟の様子】